

小寺聡編「もういちど読む山川倫理」 山川出版社 2011年4月20日刊を読む

## ふたたび高校・倫理を学ぶみなさんへー目次ー

### 序章 現代社会と自己への道

プロローグ 自分を探す旅

- 1 自己の発見
- 2 他者との出会い
- 3 社会に生きる自己
- 4 人生の意味を求めて

### 第1章 思索の源流

#### 1 哲学と思索

- (1) 哲学とは何か
- (2) 古代ギリシアの思想
- (3) ヘレニズムの思想
- (4) 古代中国の思想

#### 2 宗教と祈り

- (1) 宗教とは何か
- (2) キリスト教
- (3) キリスト教の発展
- (4) イスラーム教
- (5) 仏教
- (6) 大乘仏教の展開

### 第2章 西洋の近代思想

#### 1 人間の尊厳

- (1) ルネサンスと近代的人間像
- (2) 宗教改革と信仰の心
- (3) モラリストの人間観察

#### 2 近代科学の考え方

- (1) 近代科学の誕生
- (2) 経験論と合理論
- (3) 科学技術と平和・環境問題

#### 3 民主主義の考え方

- (1) 自然法の思想
- (2) 社会契約説

#### 4 近代の理性的な人間像

- (1) カントと人格の尊重
- (2) ヘーゲルと精神の発展

#### 5 人間と働くこと

- (1) 社会主義の思想

- (2)自由で公正な社会像
- 6 幸福と創造的知性
  - (1)功利主義と幸福の追求
  - (2)プラグマティズムと創造的知性
- 7 真実の自己を求めて
  - (1)実存としての自己
  - (2)現代の実存主義
- 8 生命の尊重とヒューマンニズムの思想
  - (1)生命への畏敬と非暴力
  - (2)社会参加とボランティア
  - (3)人類に開かれた倫理
- 9 新しい知性と現代への批判
  - (1)近代の理性への批判
  - (2)構造主義と近代社会への批判
  - (3)全体主義と大量虐殺への批判
  - (4)新しい思索の試み

### 第3章 日本の思想

- 1 日本の風土と文化
  - (1)風土と文化
  - (2)外来文化の受容と創造
- 2 古代日本人の心
- 3 日本人と仏教
  - (1)仏教の伝来と受容
  - (2)平安時代の仏教
  - (3)鎌倉時代の仏教
- 4 儒教とさまざまな思想
  - (1)江戸時代の儒教
  - (2)江戸時代の民衆の思想
  - (3)国学と日本人の心
  - (4)神道の思想
  - (5)洋学と幕末の思想
- 5 日本の近代化と新しい思想
  - (1)啓蒙思想と自由民権運動
  - (2)キリスト教と日本人
  - (3)国粹主義と国家主義
  - (4)人間解放の思想
  - (5)近代的自我の目覚め
  - (6)日本人の伝統に根ざした思想
  - (7)民衆の伝承と自然環境の保存
  - (8)戦後の日本の思想
  - (9)戦争と平和

### 第4章 現代の倫理的課題

- 1 科学技術の発達と生命

- (1) 科学技術と生命倫理
  - (2) 遺伝子の操作
  - (3) 生殖医療の課題
  - (4) 脳死と臓器移植
  - (5) 安楽死と尊厳死
  - 2 地球環境問題と私たち
    - (1) 科学技術と自然の関わり
    - (2) 環境倫理の考え方
    - (3) 国際社会と環境問題
    - (4) 日常の生活とリサイクル
  - 3 情報社会とその課題
    - (1) 情報の受け手としての自覚
    - (2) 情報の発信者としての自覚
    - (3) 現代人のコミュニケーションの変化
    - (4) 仮想現実の問題
    - (5) 情報リテラシー
  - 4 国際化と異文化理解
    - (1) 異文化との出会い
    - (2) 自文化中心主義の克服
    - (3) 文明の衝突から文明の共生へ
    - (4) 人類と宗教
    - (5) 寛容の精神
  - 5 世界の平和と人類の福祉
    - (1) 世界の平和
    - (2) 排他的・差別的な人間の心理
    - (3) 貧困の克服
    - (4) NGO の活動
    - (5) 人権意識の高まり
    - (6) バリアフリーとノーマライゼーション
    - (7) 人類の福祉
- エピローグ 命の星に生きる

P4 ~ 5

[コメント]

自分自身や家族、友人のことも大切にしつつ、地域や日本、世界の抱える課題を解決する仕事や社会的活動をするには、自律的に活動することが求められる。そのための基本中の基本は、日本や東洋、西欧だけではなく世界の人たちが考え実行してきたことを知り、これからの人生に生かすことだ。そこに、高校での学習の集大成として「倫理」を学ぶ意味がある。本書は、社会人が「高校・倫理」を学び直すテキストとして出版されたものだが、社会人だけではなく将来の社会のリーダーやエリートを目指す中・高生にも必ず役に立つ。エリート教育の教科書として、難関高校・難関大学に進学を希望する人の必読書として推薦したい。特に、理系への進学を希望する人にお勧めしたい。

— 2014年2月9日 林 明夫記 —